

大貳のむすめのはらにおはす、みめもきよらに、和歌をよよくよみ給ときこえ給き、○中三の
きみは待賢門院○鳥羽璋子におはします、

〔續世繼七たれ〕ふちなみの御ながれのさかえたまふのみにあらず、みかど一の人の御は、か

たには、ちかくは源氏の君たちこそよきかんだちめどもはおはすなれ、堀川のみかどの御母賢

子の中宮は、おほどの○藤原頼通の御子○師とてまゐり給へれど、まことは六條の右のおと○源顯房

の御むすめなり、○中そのゆかりのありさまみなもとを尋ねれば、いとやんどなくなん侍る、

むらかみのみかどの御子に、なかつかさのみ○具平親王と申しは、六條の宮とも、後中書王とも申

すこの御ことなり、○中その御子に、つちみかどの右のおと○藤原と申しは、はじめてみなもとの姓

えさせ給て、師房のおと○中ときこえさせ給き、御身のざえもたかく、文つくらせたまふかたもす

ぐれ給、○中みかど一の人の御よそひども、その中にぞおほく侍るなる、御堂○藤原道長の御むすめ

は、おほくきさき國母にてのみおはしますに、このとのゝきたのかたのみこそたゞ人はおはし

ませば、いとゞやんどとなし、その御腹に堀川の左のおと○中俊房、六條の右のおと○源顯房と申

て、あにおとうとならびたまへりき、○中六條のおと○中は、○中中宮の御おや、ほりかはのみかど

の御おほぢにていとめでたくおはしき、

〔續世繼七しほの煙〕六條のおと○源顯房、昔よりふちなみのながれこそ、みかどの御おほぢにて

はうちつゞき給へるに、ほりかはの院の御おほぢにめづらしくかくすゑさへひろごらせたま

へる、一の人の御おほぢにうちつゞきておはしますめり、

〔神皇正統記村上〕この天皇○中御子多くましくし中に、○中具平親王六條の宮と申、中務卿に

親王名譽おほしき、よりにこれ○中親王をまことにも高く徳もおはしけるにや、その子師房姓

を賜はりて人臣に列せられまが、才藝古へに耻ぢず、名望世に聞えあり、十七歳にて納言に任じ、